武田正樹 議員

パイプラインなど、農業基盤の更新整備推進を

問

市の農業の現状と今後の方針について聞く。

(1) 市の農業従事者と販売農家数、平均年齢は何歳か。

(2) 市の販売農家の現状はどうか。

(3) 国も意欲ある農家へ農地を集約させる施策を展開しているが、農業経営規模拡大は進んでいない。

幅広い世代の農業者を確保していく対策が必要ではないか。

(4) 4月からできた青年就農給付金について、市で就農する人はあるか。

(5) パイプライン、用・排水路、農道は、整備後に相当年数が経過し、更新整備が必要である。

台風が接近するとき、土地改良区の役員が排水機場を夜でも回っており、そういう人がいることを理解してほしい。

農業基盤整備はぜひ必要だと思うが、どうか。

(6) 楽しく一生涯、農産物を提供し、その収入で生活できる営農を目指す「楽生農業」について、市としてどう考えるか。

(7) (農作業を受託する)オペレーターの数と、その受託量は。

24年度10地区を予定

答 農政課長

(1) 22年2月現在、農業従事者千498人、販売農家千182戸、平均年齢は農業従事者59・6歳、販売農家68歳である。

(2) 22年2月現在、販売額300万円未満の農家が約88%で、300万円以上の農家が143戸である。

(3) 担い手を確保・育成するため、今後も農地集積支援、資金面支援、各種補助金の充実が必要だと考えている。

(4) 今は分からないが、人・農地プラン【π関連記事7面】に掲載するため、農業者に行う意向調査で把握したい。

(5) 24年度、県営事業で10地区、整備を予定している。

海抜ゼロメートル地帯である市において、農業用施設は地震や洪水時、避難路や効果的な排水に役立つなど、市民の安全を守り、一般や公共資産の被害軽減効果が大きいと考えている。

(6) 今後は他市の取り組みを注視していきたい。

(7) 20人を把握している。

作業受委託は把握していないが、(農地の貸し借りを行う)利用権設定は、346haである。